研究の全体構想

平成２１年５月　流山高等学園　研究係

研究主題

「社会自立・職業自立」に必要な『人間力』を高める教育実践

流山高等学園の考える人間力

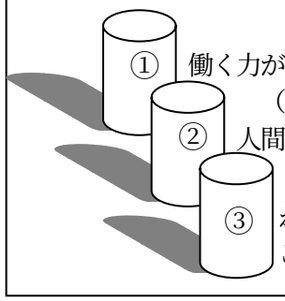
「働く喜びや生き甲斐を見つけ、主体的に社会に参加しながら自立して生きていくための力」

人間力の構成要素

①生活力や②基礎的な知識・技能、③コミュニケーション能力、④問題解決能力、⑤体力など

これらの要素が総合的に結びつくことで人間力が高まる

流山高等学園がめざす生徒像（3つの柱）



① 働く力が育つ生徒
（もの作り、人の役に立つ）

② 人間関係が豊かな生徒
（仲間、縦割りの関係、集団）

③ わかる喜び、できる喜びを味わうことのできる生徒（成就感・達成感）

本校の教育課程と人間力の構成要素との関係

①生活力	②知識・技能	③コミュニケーション能力	④問題解決能力（実践力）	⑤体力
学校生活 家庭との連携 地域社会	専門教科・普通教科が考える人間力	専門教科・普通教科・自立活動・生徒会など	ＳＴ学習	専門教科・普通教科・部活動

生徒個々の人間力を高めるために

生徒の自己評価力を高め、自己肯定感を促す支援の工夫を行い、社会で生きていくために必要な「生活力」や基礎的な「知識・技能」、「コミュニケーション能力」、「問題解決能力」、「体力」などを育む支援をニーズに応じて行う。

研究内容

目標	評価、アセスメント	実践、具体的な支援
どのような力をつけて社会に送り出すのか ３年間の到達目標を明らかにする	生徒一人一人の発達段階を明らかにして より実践的な支援に結びつけていく	「人間力」を高める支援の工夫
①各コース、各教科の考える「人間力」 「人間力」について、各コース・教科において、３年間でどのような力をつけて社会に送り出すのか、卒業までにつけたい力の目標などを整理する。	②キャリア発達段階から見た人間力チェック表（試案）の実施 前期の早い時期（４～５月）に全生徒対象で行い、（評価者は担任）個別の指導計画に添付する。	③「人間力」を高める支援についての研究授業を行う。 「人間力」を高める支援実践レポートおよび学習指導案の作成。

流山高等学園のキャリア教育

「キャリア発達の視点」という共通の視点で生徒を捉え、生徒一人一人の発達段階や発達課題を明らかにしてより実践的な支援を目指す。

キャリア発達の視点を踏まえた授業展開を行い、支援方法の工夫につなげる。

・「人間関係形成能力」
・「情報活用能力」
・「将来設計能力」
・「意思決定能力」

生きる力を育む支援の充実

平成２１年５月　流山高等学園　研究係

研究授業の構想

実践、具体的な支援

「人間力」を高める支援の工夫

③「人間力」を高める支援についての研究授業を行う。
「人間力」を高める支援実践レポートおよび学習指導案の作成。

他己評価の活用・・・
・客観的な評価を知る
・自己評価との比較

↑
自己評価力を高める手助けとなる
↓

自己評価力を高める・・・
生徒の姿
・適切な評価ができるようになる
・適正に評価できる
教師の支援
・不適切な評価に対する指導・支援
・日々の授業、生活場面で意図的に関わる

到達度評価の視点を入れる・・・
・授業のねらいを明確にする
・具体的な目標を設定する

自己肯定感を高め、自己実現する力を育む授業の工夫

自己肯定感を高める方策を練る

仮説1

自他を見つめ次のステージに主体的に進んでいくために必要な力である「自己評価力」を高めることで、自己肯定感を育むことができるのではないか

方法
各専門教科・普通教科の授業において、授業展開の工夫や、振り返りシート、自己評価表などのワークシートを導入するなど、「自己評価力」を高めるような支援を行う。

仮説2

基礎学力の定着を基に、ニーズに応じた支援を展開することで確かな学力の育成を図ることができ、自己肯定感を育むことができるのではないか。

方法
基礎・基本の洗い出し、教材の工夫（オリジナルテキストなど）、指導方法の改善、自己評価力を高める実践などを行う。

仮説3

授業の中で学び合う場を用意することで、コミュニケーション能力を高めていくことができ、学習意欲の向上や思考力・判断力・表現力等を育むことができるのではないか。

方法
コミュニケーションが頻繁に発生するような環境や学び合いの場を授業の中で用意するなど、学びの中に多様なコミュニケーション活動を含める。

仮説4

ＳＴ学習の取り組みを充実させることで、問題解決能力（実践力）を高めることができるのではないか。

方法
ＳＴ学習に関する研修会、研究授業、協議会を実施し、取り組みの内容・方法などについて職員の共通理解を進め、支援の充実を図る。

〇専門教科　各学科より１コース選出して研究授業を行う。　※全コースで指導案を作成し、授業を見合う機会を設ける。
〇普通教科　２教科選出して研究授業を行う。　※専門教科、普通教科ともに、公開研究会の内容によっては、当日に焦点授業として展開する可能性あり。